

■ 災害時に必要なご近所の力！安全安心に向けた地域の役割を考える ■

社会安全学部・大阪連続セミナー(全10回)

「地域コミュニティと社会安全学」を開催

【日 時】10月6日(金)～12月22日(金)、原則毎週金曜 18:00～20:00

【場 所】関西大学梅田キャンパス 8階 KANDAI Me RISE ホール

関西大学社会安全学部では、2017年度大阪連続セミナー「地域コミュニティと社会安全学」を10月6日(金)から12月22日(金)の毎週金曜日(※11/3、11/10を除く)に、梅田キャンパスにて開催します。

本件の
ポイント

- ・「地域コミュニティ」が果たす防災への役割を解説
- ・日本有数の防災・減災分野の教育・研究機関である社会安全学部所属教員によるリレー講義
- ・行政職員や災害ボランティア、自主防災組織など、地域防災や安全安心に関わる方を対象

災害時にご近所の力が重要になることはよく知られています。自主防災組織や防災福祉コミュニティといった市民社会の重要性は、阪神・淡路大震災を契機に強く問われるようになり、市民・行政協働に向けた基盤づくりこそが地域を支える上で必要とされています。支え合う力とはどのようなもので、そしてその力をどう育めばいいのか。本セミナーでは「地域コミュニティ」に焦点を当て、行政職員や災害ボランティアなど、地域の防災や安全安心に関わるすべての方を対象に、同学部気鋭の教授陣が最新の研究成果をリレー形式で解説します。

なお本セミナーは、2013年から毎年テーマを変え東京で開催しており(2016年からは大阪でも開催)、これまで「福島原発事故」「東日本大震災の復旧・復興」「安全に関わる科学技術の最前線」などをテーマに、安心な社会を創り出す上での「社会安全学」について講じてきました。また同学部は、日本有数の防災・減災分野における教育・研究機関として、安全安心な社会づくりに向けた働きかけを積極的に進め、政策科学としての「社会安全学」の構築・体系化に取り組んでいます。

つきましては、ご多忙の折恐縮ですが、取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

記

【日 時】 10月6日(金)～12月22日(金)の毎週金曜日 18:00～20:00 ※11/3、10を除く

【場 所】 関西大学梅田キャンパス 8階 KANDAI Me RISE ホール (大阪市北区鶴野町1-5)

【講 師】 社会安全学部専任教員計10名

【概 要】 防災を考える上で重要な要素の一つである「地域コミュニティ」に焦点を当て、地域としての災害への備え方をはじめ、支え合う力とはどんなもので、どう育めばいいのかといった問題をテーマに、公衆衛生、防災教育、被災者支援、福祉、心理、まちづくり、交通、津波など様々な角度から考察する。

【対 象】 行政職員や災害ボランティア、自主防災組織など、地域の防災や安全安心に関わるすべての方

【受講料】 1万円(全10回分)【定 員】 150名(受付終了)

以 上

※取材をご希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■プログラムの詳細（予定）

日 程	テーマ	講 師
第 1 回（10 月 6 日）	開講の挨拶/地域社会と安全	安部 誠治
第 2 回（10 月 13 日）	公衆衛生と地域社会	高鳥毛 敏雄
第 3 回（10 月 20 日）	学校と防災教育	城下 英行
第 4 回（10 月 27 日）	災害と被災者支援	菅 磨志保
第 5 回（11 月 17 日）	福祉と防災	山崎 栄一
第 6 回（11 月 24 日）	地域防災の課題	永松 伸吾
第 7 回（12 月 1 日）	コミュニティ防災への心理学的アプローチ	元吉 忠寛
第 8 回（12 月 8 日）	防災まちづくり	越山 健治
第 9 回（12 月 15 日）	都市と交通まちづくり	西村 弘
第 10 回（12 月 22 日）	津波シミュレーションと地域防災	奥村 与志弘

■関西大学社会安全学部とは（2010 年 4 月開設）

「安全・安心をデザインできる社会貢献型の人材を育成します」

自然災害や社会災害は、普段は気がつかないような、私たちが生きる上での問題を浮き彫りにします。社会安全学部では、安全・安心というレンズを通して、私たちが生きる社会や人間、自然を洞察し、そこにある問題を解決することで、自然災害・社会災害の最小化を目指しています。

具体的には、法学、政治学、経済学、経営学、心理学、社会学、工学、情報学、理学、社会医学など、多様な学問分野による教育を展開し、また、これら既存の学問を総合して、問題を解決する能力を養います。